

# 明治百年頌歌きまる

今年明治百年にあたりまして世界各地をまわって来ました。明治改元の詔勅が出された日は、慶応四年九月八日（新曆換算一八六八年十月二十三日）でこの時から明治になったのです。

そこで今年の十月二十三日には国をあげて記念祝典の行事が行われることになっていきます。

その行事の一つ「青年の船」は皆様ご存じのように今年一月十九日東京港を出発し

## 明治百年頌歌

のぞみあらたに

滝田 常晴 作詞  
サトウ・ハチロー 補作  
勝 承夫 作曲  
外山 雄三 作曲

一、光あり 誇りあり

ここに百年  
ふりかえる明治のあゆみ  
このくにのいやます栄え  
うけつぎてさらに進まん  
われら われら  
のぞみあらたに

二、響きあり 応えあり

ここに百年  
たくましく 明治の力  
たたえつつ 試練をかさね  
大いなる 道を拓かん  
われら われら  
つねに励みて

三、総りあり 泉あり

ここに百年  
豊かなる 明治のころ  
ことほぎて香りをうつし  
よろこびを共にうたわん  
われら われら  
空を仰ぎて

ところで「明治」という年号の出典はといいますが、易經の「聖人南面して天下に聴き、明に嚮って治む」からとったものだと言われていました。顧りみて正すべき過ちもなかったとは言えませんが、先人の勇気と聡明と努力を追想して、私たちはこれを現代に生かしこれからの日本の躍進

に役立てて行くべきであると思えます。

## 勤め人の奥さんも 国民年金に加入を

国民年金制度では、農漁業に従事している人とか自分で商売などをしていてる人たちは、当然加入しなければならぬことになっていますが、会社や役所などに勤めている人の奥さん方は、希望すれば加入できることになっていきます。

このような奥さん方を義務加入者としていないのは、ご主人が会社や役所などが加入している厚生年金やその他の共済組合などの年金制度から、ある程度の保障があるためです。しかし奥さん自身が年をとって働けなくなるとか、ケガをした時などは何の保障もないわけです。奥さん方も国民年金に加入して将来は夫婦そろって年金を受けられるように、今からでも印鑑を持って役場住民課で、加入の手続をされるようおすすめします。

## ふる里の話題

### 大力無双の海保甲斐守 (三)

#### 悲壮！ 嶋の坊で自刃

それから三吉はをつくって川端に馳せ向う。寺台の河岸まで来て三吉これを見て幅八間の根古て見ると橋を引いて名川を飛び越えながら、二十て河面には篠田、四本ひかえた鎧を両手にて八日暮兩人の上使が本をかき掴み引折って捨てて出迎え「御上意にしました。この勢に恐れをなして土井大炊頭名代としてわれし大勢の者ども一度にどつと等兩人罷り越した。それにて切腹なされ候え」と呼ばわて三吉これを聞いて「御上意なれば是非なし。城に入つて切腹仕る。橋を渡し候え」と答えた。これに対し「橋を渡すこと罷りならぬ。それに切腹召され候え」と言うや否や三百騎の兵、三吉を渡さしと切先をならべ、鎧ふすま

をつくって川端に馳せ向う。寺台の河岸まで来て三吉これを見て幅八間の根古て見ると橋を引いて名川を飛び越えながら、二十て河面には篠田、四本ひかえた鎧を両手にて八日暮兩人の上使が本をかき掴み引折って捨てて出迎え「御上意にしました。この勢に恐れをなして土井大炊頭名代としてわれし大勢の者ども一度にどつと等兩人罷り越した。それにて切腹なされ候え」と呼ばわて三吉これを聞いて「御上意なれば是非なし。城に入つて切腹仕る。橋を渡し候え」と答えた。これに対し「橋を渡すこと罷りならぬ。それに切腹召され候え」と言うや否や三百騎の兵、三吉を渡さしと切先をならべ、鎧ふすま



正光院墓地に腕骨を埋葬したところ

と見えと言いついたもので、里人はこれを「三吉松」と称し「三吉様も成仏なされた」と安堵の面持で回想したのであった。

さて寺台の人々は今でも甲斐守様とか三吉様とかと尊敬

逸話が残っているが、余程の大男の豪傑であつたらしく、父の丹波守英氏の時、先祖大隅守氏義から数代の居城であつた市原郡海保村の海保城から所替えによつて、千葉氏の支城で、その一族馬場伊勢守勝政の居城であつた寺台城に移つて来たのである。三吉の死後、海保氏は改易となり、寺台城は上意によつて破却された。寺台村の三百石は小野次郎右衛門が功勞によつて賜わり、その子孫が連綿として知行し明治維新まで続いた。

土屋村（現在市内）の文珠院という僧はかなりの高僧であつたことがわかれる。山の作村（現在市内）の円融寺の僧は三吉の善の好敵手であつた。

三吉の腕骨が屋形村（現横芝町屋形）の一族海保五左衛門の老松が枯死したので、掘起したところ、その真下から人骨一体と唐銭七十五枚及び石枕が出土、骨格から推して三吉の遺骨と推定され、同所の永興寺で寺台区の主催で宗族として屋形海保氏数人、筆者もこれに加わり、成田市長も参列して追悼会を行なつた。屋形では三百三十四年間保存した腕骨を正光院に埋葬した。

（海保忠氏特別寄稿）

【引用書目】  
千葉県伝考記、海保家旧記、小倉大亮文書、下総旧事考、諸家系図纂、匝瑳郡誌、佐倉風土記、徳川実記、印旛郡誌

△解説△  
海保三吉については色々の